

<b>〔科目名〕</b> 教養特殊講義 I	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 横手一彦	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義開始時に指示 <b>場所:</b> 横手研究室(616 号室)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>この講義は、近代日本の文学作品を個別に読み解くことを基本に、そのことに関連する事柄を含めて、ことばへの理解を深め、その実践を目的とする。このことは、作品を要約し、成立背景等を確認し、内容を読み込むということにとどまらない。ことばは、考えるという、思考そのものが外在化した一つの形式である。また、ことばを〈学ぶ〉ことで、新たな感情が内部に生成する。そのような考え方が、これまでの「国語」教科と違う点である。</p> <p>そして、文学作品の読解は、非定型的な思考や感情の在り方を読み解くという行為でもある。そこに、これまで自分が理解し、持ち得ていたこととは異なる、特異性や意外性があることに気付く。それは、外部要因に誘発されながら、内部的な在り方を深めることに広がる。</p> <p>読書行為は、感受＝感じ取る、享受＝受け取って自分のものにする、鑑賞＝意味を理解し味わう、批評＝評価を述べる、評論＝意味を論じる、解釈＝意味を解き説明する、研究＝事実を調べ分析し論理的に解説する、という各段階に区分けられる。作品は、読者(自分及び自分たち)の読書行為によって成立し、読者の位置(現在性)を問い直すことに拡散する。そして、新たな意味付けとして集約する。そこに、作品を読む面白さがある。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>ことばを学ぶ基礎は、自分の見方や考え方を捉え、自分と異なる見方や考え方を習得する契機を得て、再度自分の在り方に立ち返ることにある。ことばは、見えることを表現し、また、見えないことを表現する。その狭間を新たなことばで表現することで、それまでと大きく異なる私的時空間が創出される。それは、現実の時空間の渦中にありながらも、部分的に、現実の時空間を超える(「現実」・理想・幻想・虚妄……)。</p> <p>学び、考える主体として、近代という自明性に疑問符を付し、私的に再構成し、全体像を構想し、その変化を部分的に読み解く。このような基本に立ち返ることで、他の科目との相互性がその底辺部に形成される。</p> <p>ことばによって、「理解すること」と「表現すること」の意味を再把握する。このような内的な営為は、間接的に、生きるという姿や形に関わる。時には、直接的に関わる。</p> <p>〈学ぶ〉ことは、自立的に生き、生き続け、より人間的に生き続ける方途である。それらを、教場で考えたい。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>中間目標：          この講義は、教養教育科目の一つである。文学作品を具体的に読み、そこから掬い上げる非定型の知情の在り方を分析し、考察し、それらを講義前半の獲得目標に置く。読むということは、単に読み流すことではなく、作品本文を焦点化し、その部分を分析して、そこに書かれた内容と、書かれていない内容を理解し、考察することである。これまでの「国語」教科とは異なる〈ことばを学ぶパターン〉を紹介する。そして、自分が自分の行為を理解し、自分が自分の内面を表現する大切さに及びたい。</p> <p>最終目標：          ことばを理解し、表現する、という人文科学領域の段階的な実践から、特定の課題に対し、それを対象化して、解決する方向性を模索する。講義後半では、映像や画像などの視覚媒体との関わりに拡大する。具体的には、青森県大間町の漁港をロケ地とした映画を取り上げる。そして最終目標を、現実に向き合い、現実の課題を解決する能力の獲得(視覚媒体も含めた文字媒体による「理解」と「表現」)とする。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>前年度の受講生から、板書等の教授法に関する改善を求められた。それらの改善に努める。また、プリントを活用する。平板な講義内容にならないように、また受講生の理解を深めるように講義内容を工夫し、組み立てる。今年度も、新たな教材研究に基づく教材開発に努め、その一端を講義に組み入れる(講義内容の部分的変更もある)。</p>		

<p>〔教科書〕</p> <p>特に指定しない。</p>	
<p>〔指定図書〕</p> <p>特に指定しない。</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>講義の進行に伴い、適書を指示し、参考文献を紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>なし。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>近代の文学作品が、日本の近代化の諸相を、どのような人間的行為として描いたのか。この概略を多義的な視点から読解する。このことに対する学生側からの意見を求める。また、過去の特定の地点に立ち返り、現在の時空間の具体相についての理解を深める契機としたい。後半には、視覚媒体の教材を含める。</p> <p>自分が、ことばによって表現する能力を高める。これらが、毎講義における評価の観点である。受講者数などの要件によって、具体的な実施方法等は異なってくるが、講義のなかで小レポートを課す(クイズ)。また講義終了時、講義内容等に関するコメントを求める。学生の講義への参加を促し、それらの関わりを評価する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>講義への積極的な関わり(30%)、小テストや小レポート(30%)、学期末テスト(40%)。学期末に実施予定の試験は100点満点で採点する。それらを按分し、区別ける。A=100-80点 B=79-70点 C=69-60点 D=59-50点 F=49-0点</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>この講義は、次のように進行する。多義的であり、雑多な感を持つであろうが、次のような項目立てと段階による。I. はじめに II. 前回の学生コメントの紹介 III. 復習 IV. 学生の考察・作業 V. 作品紹介 VI. 分析と考察と論理化 VII. 理論的な思考方法 VIII. 要点確認 IX. 質問 X. コメント。</p> <p>講義内容に関連する事柄を事前に学習し、挙手や質問シートに書き込むなど、積極的な取り組みを望む。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 講義への導入</p> <p>内容: 自己紹介 受講要件の確認 受講態度など 講義の概略 出席カード</p> <p>講義の導入(例. 言葉の基本形作品評価の具体例) 宮野美乃里の作品 国語と母語</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為1</p> <p>内容: ことばの基本形 学校教育 『言海』 自国の言語の規範 蕪村の作品</p> <p>文学作品の分析例 文学の3要素 分析の3視点</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為2</p> <p>内容: 物語るという動物的な行為(?) 物語るという人間的な行為 神の視点から人間の視点への転換 時空間の整序 科学的思考方法の一例 解釈学的な経験</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化1</p> <p>内容: 近代という考え方 三重の時間の束 耳からの読書 身体的な関わり1 宮沢賢治の作品</p> <p>教科書・指定図書</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化2          内 容: 文学(四角の図の補助線) 原典研究と批評史研究 存在と非在          教育的価値観の逆転=墨塗教科書 三浦綾子の作品</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆1          内 容: 世界戦争と人間の在り方 過去完了形と現在進行形 身体的な関わり2 林京子の作品          当事者と非当事者 戦争状態の回避 平和的關係性の構築</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆2 石田雅子の作品          内 容: 『新体詩抄』 家族の形 書誌的追求 被爆時の救援列車 敗戦 敗戦期の文学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域史研究・文化研究の可能性——事例研究「島原の子守唄」分析          内 容: 長崎県島原半島 口之津港 外国船 地域に生きる 地域外に生きる 子守唄          情の結晶 地域の庶民史 地域の文化 過去の生成物 津軽・下北・三八上北</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 思考過程を組み立てる・思考過程を文字化する          内 容: 対話「本気」 夢と現実 学ぶということ 咸宜園 ことばで語る ことばで表現する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば1——文字媒体・画像媒体・映像媒体の段階          内 容: 絵画と文字 壁画 印刷 肖像画 写真技術の発達 上野彦馬</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば2——画像媒体の進化 目の現実とレンズの「現実」          内 容: 絵画による理解 画像による理解 映像による理解 米国企業コダック          19世紀から20世紀へ 映像の諸相 画像から映像へ 映画産業の成立</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば3—— 映像の進化          内 容: ヒトラーとチャップリン 電子技術 「理解」と「表現」</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば4——文学と映像A 地域に生きる          内 容: 吉村昭『魚影の群れ』と映画『魚影の群れ』 作品成立の背景 現実に生きる</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば5——文学と映像B 「現実」が描く事実と人 批評する視点          内 容: 吉村昭『魚影の群れ』と映画『魚影の群れ』 視覚化された作品世界 現実と「現実」</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ          内 容: ことば(話す・聞く・読む・書く) 文学作品 表現と形式 理解と表現          視覚資料と文字資料による現実と「現実」</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末試験をおこなう(——受講者数の関心の在り方などを考慮し、レポート提出に代えることもある)。</p>